

第3回 庄内中高一貫校（仮称）教育基本計画策定委員会 記録（概要）

1 日 時 令和元年 11 月 22 日（金）10：30～12：00

2 会 場 1002会議室

3 参加者 委員長（座長）、委員 12 名

4 内 容

1 県教育委員会あいさつ

2 報告

(1) 第2回教育基本計画策定委員会の概要

(2) 先進校視察について

(3) 施設一覧について

(4) その他

3 協議

(1) 基本理念等（案）

(2) 開校準備スケジュール（案）

(3) 中学校給食の実施方式（案）

(4) 教育計画班の提案事項

① 先取り学習の実施（案）

② 日課、授業の1単位時間、週時程（案）

③ 入学者選抜の基本方針（案）

(5) 施設設備班の提案事項

① 施設整備計画（案）

(6) その他

4 連絡

次回の開催について

5 発言要旨

2 報告

(1) 第2回教育基本計画策定委員会の概要 事務局長より説明
質問等なし。

(2) 先進校視察について 部会長より説明
質問等なし。

(3) 施設一覧について 副部会長より説明
質問等なし。

(4) その他 事務局長より説明

・庄内中高一貫校（仮称）の開校準備に係る先進校視察及び意見聴取について
質問等なし。

3 協議

(1) 基本理念等（案） 部会長より提案

（委員）

社会的使命の自覚について、期待する生徒の姿として、外に、未来に広がっていくイメージがあり良い。目指す学校像について「地域を分厚く支える人材の育成」という言葉から、地域とともに進める人材育成のイメージを伝えやすくなったと思う。

（委員）

協働を手段と考えた場合に、その上位の目標として「社会的使命の自覚」とするのは良いと考える。但し、「自覚」という言葉が、「自主自立」と重なる印象があり気になったところである。個人的には「自覚」という言葉は気に入っているところである。

（委員）

「社会的使命」という言葉が、「育てる生徒像」と「目指す学校像」にある記載を読めば理解できるが、言葉だけからは、具体的なイメージが持ちにくい印象である。より具体的なイメージが描けるような言葉も必要ではないかと思う。

また、基本理念を達成目標と考え、「自覚」だけではなく、社会的な使命を遂行するといった、より前向きなものにしてはどうかと思う。

（委員）

他者と関わり協働して、外へ、社会へ、未来へと視点を広げていく意図が分かる。必要な資質能力を身に付けて、社会の中で自立して使命を果たしていくことを大切にしていることについて共感し、理解できる。

また、基本理念を目指すものと考えた場合に、「自覚」では資質能力の獲得には至っていない印象がある。学校教育法の中教育学校の目標にある、社会的使命を自覚し、どうするのが重要ではないか。基本理念の「社会的使命」の下に書かれている文章の「自覚し、」以降の「他者と協働して物事に取り組むこと」が目指す姿であろうと考える。使命を自覚し、答えのない課題について、力を寄せ合って課題を解決していくという協働や貢献といった姿が目指すものなのではないかと思う。自覚して実践してくようなイメージがあると良いと思う。

（座長）

「社会的使命」について、方向性としては賛同いただいた。ただし、「自覚」については、将来に向けた資質能力の獲得を目指す表現として考えて、教育計画班会等で検討し再度提案をお願いする。

(2) 開校準備スケジュール（案） 事務局長より提案

（委員）

令和6年度開校の提案は、これまで重要事業要望をしてきたところであるので、大変感謝している。ハード面について、中学校の改修工事は開校までに間に合うものの、高校の改修工事は、開校後1年半を要することについて、できるだけ前倒しできればと考える。高校生も新しい校舎で開校を迎えられることがベストである。十分に検討をした上で、このスケジュールであると思われるが、より具体的な説明があればお願いしたい。

(委員)

学校の規模が相当大きいので、令和6年度までに全ての工事を完了するのは困難である。安全性を第一として、教育活動に支障が出ないように仮設校舎を建設した上で工事を進めるスケジュールとしている。但し、工事が完了したところから供用をできるだけ早く開始したいと考えている。現時点では工事の全容が固まっていないが、今後、設計の段階の中でも、校舎の完成を早期に実現したいという姿勢で検討していきたい。

(委員)

現段階で、増設の場所のイメージはあるか。普通教室は開校に間に合わせられるようお願いしたい。

(委員)

増設の場所については、来年度実施する地質調査の結果などを踏まえて、最適な場所を検討していく。普通教室の使用については、第一に求められるとの認識であり、優先的に供用できるよう進めていきたい。

(委員)

令和6年度開校の提案は、大変ありがたいところである。ただ、未だに少数ではあるが反対の立場を表明される方もおり、校舎が完成しないまま開校となると、住民感情としても釈然としない。高校の校舎の改修を早めていただきたい。せめて、教室だけでも開校に合わせて供用できるようにお願いしたい。開校時に高校に入学・進学してくる生徒にとって、期待や夢が満ちたものとなるよう、工事の前倒しをお願いしたい。開校はしたものの、仮校舎で勉強するのは可哀想である。

(委員)

生徒の期待等については、我々も同様に大事に考えている。鶴岡南高校の校舎は、鶴岡北高校の校舎に比べてやや古い施設であり、老朽化した設備を合わせて改修し、リニューアルする予定である。

(座長)

鶴岡南高校は、かなり大規模な改修をするため、時間がかかる。学校施設等の建設・改修については、県全体としての計画もあるなど、工事を開始する時期については、様々な事情を考慮しなければならない。その中でも、できるだけ早期に開校したいとの思いから、工事は継続しているものの、普通教室については開校に間に合わせる努力をしつつ、開校年度を令和6年度としたいという点については理解していただけたと考える。

(委員)

12月の県議会で公表されるとのことであったが、どのような公表の仕方になるのか。工事が継続していることについて、相当世論が騒がしくなると思われる。

(事務局)

開校しても高校の校舎の工事が継続していることについては、説明することになる。今後、理解してもらえるよう努力していくことになると思う。なお、工事の終了の時期については、再度確認する。

(座長)

どのような表現とするかは、配慮も必要であると思われる。

(3) 中学校給食の実施方式（案） 部会長より提案

（事務局）

前回、市から県に給食の提供することについて、制度的に問題等はないのか確認したところ、現在、本県の特別支援学校において、市から県に給食を提供している事例があり、制度的には問題がなく、議論を進めていくことが可能であることがわかったところである。

（委員）

鶴岡市給食センターの受け入れ能力は大丈夫であるとセンター長から聞いてきた。また、特別支援学校において、自前で給食を提供しているわけだが、そこから給食を提供することは可能なのかという質問があった。給食費の分担がどのようになるのか、気にしていたようである。

（事務局）

詳細については、今後確認する。おそらくは、特別支援学校の給食施設等は、そのサイズに合った調理能力だろうと思われるので、庄内中高一貫校（仮称）に給食を提供するには、増設等、何らかの手立てが必要になると思われる。

（座長）

費用負担については、今後の検討になるが、一般的には応分の負担となると思われる。今回は、自校での調理による給食の実施方式とはしないとすることとし、今後の検討を進めていただきたい。

(4) 教育計画班の提案事項 部会長より提案

① 先取り学習の実施（案）

（委員）

高校での進度差の対応として、数学は内進生と外進生は別に授業を行うとのことであったが、いつまで別授業とするのか。発展的な学習として、理科については議論にならなかったのか。理科の特性として、実験を通してじっくり物事を考え、そこから新たな発見をするといったことが重要であり、ある程度時間がかかるものと考えたところである。但し、週30コマの中では難しいところであるとも思う。

（部会長）

佐賀県の事例では、外進生に対して放課後に補充するなどして、1年生のうちに進度を合わせるとのことであったが、生徒の負担等を考慮し、茨城県の事例を参考に、教科書が終わるまでは、進度を合わせないこととした。詳細については、今後、開校整備委員会等で検討していくことになる。

また、先取り学習の教科については、理科の化学を先取りしてはどうかと検討したこともあったが、他の学校の事例を見ても、ベースとなる数学、英語を中心としている事例が多く、このような提案となった。なお、SSHの認定を受け、理数科を設置している高校でもあるので、探究の視点から、中学校でも高校の内容の実験をできないものか、今後検討していきたい。

（座長）

数学の進度差の対応について、詳細な検討は今後であり、発展的な学習については、探究の視点にも関係するところであるとのことであった。まずは、原案の通りとし、詳細については、今後検討をお願いしたい。

② 日課、授業の1単位時間、週時程（案）

（委員）

東桜学館中学校も同じように毎日6時間目までであるが、東桜学館中学校では生徒会活動をどのように行っていたのか。

（事務局）

火曜日と木曜日において、高校が7時間授業となっており、木曜日の7時間目の時間を生徒会活動等に充てていた。

（座長）

東桜学館と違い、分離校舎であるので、日課を別にできる点は利点でもある。特に異論が無ければ、このように進めることとする。

③ 入学者選抜の基本方針（案）

（委員）

受験競争の低年齢化を懸念する声に対する説明に苦慮している。入学者選抜の方法については、地域に対して、より良い説明をしていかなければならないと考えているので、今後、この点についてもお願いしたい。

（座長）

東桜学館中学校の入学者選抜がモデルになってくると思われるものの、詳細については今後検討することになる。この案について、特に異論が無ければ、このように通り進めることとする。

(5) 施設設備班の提案事項 副部会長より説明

① 施設整備計画（案）

（委員）

鶴岡南高校については、全面改修となるのか。増築だけだと前倒しできると考えていたところである。

（委員）

老朽化している設備はほぼ全面的に更新し、建物の骨格部分は活かしながら、住宅で言えばリフォームのような改修を行いたい。外壁や屋根についても改修し、新しい学校にふさわしい環境整備を図りたいと考えている。

（委員）

全面改修という言葉があれば、地域の方々からも納得していただけるのではないかとと思われる。

（座長）

全面という言葉が適切かどうか、今後検討が必要である。特に異論が無ければ、この案の通り進めることとする。

(6) その他 部会長より説明

（部会長）

第2次計画では、理数科1学級とあるが、2学級にするかどうかの検討をしたい。また、まとめ募集とするかどうかの検討をしたい。

（座長）

特に異論が無ければ、この案の通り進め、次回提案をお願いしたい。

庄内中高一貫校（仮称）開校準備に係る先進校視察・意見聴取の一覧

今年度、先進校視察・意見聴取を実施した内容等は、以下の通り

	分野	所属及び役職名	所在地	訪問時期	聴取内容
1	先進校	三田国際学園中学校・高等学校 教頭	東京都	R1. 9. 25	全般
2	先進校	茨城県日立第一高等学校・附属中学校 教頭 他	茨城県	R1. 9. 26	全般
3	先進校	東桜学館中学校・高等学校 校長・教頭 他	東根市	R1. 11. 18	全般
4	有識者	平田牧場代表取締役社長	酒田市	R1. 11. 13	庄内産業 等
5	有識者	東北公益文科大学長	酒田市	R1. 11. 14	期待及び要望 高大連携 等
6	有識者	生涯学習施設「里仁館」館長	酒田市	R1. 11. 14	庄内自然 庄内文化 等
7	有識者 先進校	千代田区立麴町中学校長	東京都	R1. 11. 15	期待及び要望
8	有識者 先進校	広尾学園中学校・高等学校 教頭・コース統括長	東京都	R1. 11. 15	理数教育 等
9	有識者	慶應義塾大学先端研所長	鶴岡市	R1. 11. 21	期待及び要望 高大連携 等
10	有識者	致道博物館代表理事・館長	鶴岡市	R1. 11. 21	庄内歴史 等

※ 今後も、必要に応じて視察や意見聴取を実施する予定

先進校視察 報告

訪問先	山形県立東桜学館中学校・高等学校	日 時	令和元年11月18日(月) 14:30~17:00
訪問者	山形県立鶴岡南高等学校 教頭、教諭4名 山形県立鶴岡北高等学校 校長、教諭3名 山形県教育庁高校教育課 指導主事、高校改革主査	応接者	山形県立東桜学館中学校・高等学校 校長、教頭(高校)、教諭(中学校)
1 基本理念・教育目標	<p>基本理念：「高い志」「創造的知性」「豊かな人間性」</p> <p>教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域社会や国際社会の発展に貢献しようとする高い志を育てる ○豊かな感性や探究心と論理的な思考力を基盤とした創造的知性を育てる ○心身ともに健やかで、郷土愛と公共の精神に富む豊かな人間性 		
2 定員等	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校は定員99名(男女別の定員は同数程度)。 ○高校の定員は200名だが、200名のうち内進生を除いた人数を募集。内進生は高1で3クラスの単独クラス、外進生も同様に3クラスの単独クラス。 		
3 教育課程等	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校3学級、高校5学級(1年次6学級)計25学級の併設型中高一貫教育校。県立楯岡高等学校を母体とし、平成28年度に開校。単位制3学期制。 ○高校2年次から文理分けを行い、進路志望に応じた教育課程を設置 文系は「東大」「一般」「芸術」、理系は「理工」「看護」 現在は、高2は理系3学級、文系2学級、高3は理系2学級、文系3学級。 ○学校設定教科・科目は、高1年で「SS自然科学基礎Ⅰ」4コマ、「SS健康科学」2コマ、「SS総合探究Ⅰ」1コマ、高2年で「SS自然科学基礎Ⅱ」3コマ、「SS総合探究Ⅱ」2コマなどがある。 ○高1、3年次の履修は32単位だが、高2年次は33単位。(長期休暇等で対応) ○少人数指導、習熟度別指導を、数学科と英語科で実施。(ゼミ室等が多数必要。) ○平成30年度卒業生の国公立大合格数は41名。 ○中学校は、毎年クラス替えをしている。 		
4 日課等	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校が55分×30コマ。高校が55分×32コマ。中高で同日課。中学校の昼休みは給食を含めて50分。高校7校時の日は、中高とも清掃時間を5分短縮。 ○中学校は火・木曜日の放課後(16:05~16:35)を「学びタイム」「アクティブタイム」とし、自主学習や生徒会活動・行事等の準備等に充てる。 		
5 先取り学習	<ul style="list-style-type: none"> ○中学3年2学期から、数学Ⅰの先取り学習(中学教員と高校教員のTT)。 数学Ⅰの70時間相当を先取り。中学校は教科書の他に、副教材として「体系数学」(数研)を使用。数学Ⅰの単位は高校で修得となる。内進生と外進生の数学の進捗差の対応として、別授業、別テストで評価。 ○中学校の英語は、通常より33%多い授業時間を確保。教科書の他に「ニュートレジャー(Z会)」(中高一貫教育校向けの副教材)を使用。高校英語の内容を含んだ高度な内容。高校2年次以降の授業は、習熟度別で対応予定。 ○中学校の内容の発展学習として、中学3年国語で古典、中学2年理科でモルなどの学習を実施。 		

<p>6 理数教育 ・SSH</p>	<p>○SSH指定1期3年目。「やまがたの未来をつくるグローバルな視点を持った科学技術人材育成プログラム」の研究開発を目的としている。</p> <p>○昨年度、「SSH生徒研究発表大会」において「ポスター発表賞」を受賞。</p> <p>○「未来創造プロジェクト」における探究的な学びや、蔵王観察実習（高1）、つくばサイエンスツアー（高1希望者）、ハワイ島フィールドワーク（高2希望者）等の体験的な学びを通して、理数教育の充実を図る。</p> <p>○理科室の実験器具等は、最新の設備。</p>
<p>7 外国語教育</p>	<p>○イングリッシュキャンプ（中1）、海外研修旅行（中3、高2）を実施。</p> <p>○G-TECは中学2、3年生が受験。英検は中学生全員が受験。オンラインスピーキングトレーニングは中学3年の希望者が1回30分で実施している。</p>
<p>8 ICT</p>	<p>○全普通教室にプロジェクタを設置。電子黒板機能、協働学習機能対応。書画カメラ等を常設。</p> <p>○電子黒板対応の大型TV11台。大教室での視聴覚教材として効果的に活用。</p> <p>○学習に係る施設はすべて無線LAN配備。</p> <p>○タブレット端末（中学約150台、高校約200台）を用いた協働学習。</p>
<p>9 地域・大学等との連携</p>	<p>○山形大学と探究型学習の推進における教育連携協定を締結。</p> <p>○山形大学、県立保健医療大学の協力を得て、体験型実習講座を実施。</p>
<p>10 中高教員の連携</p>	<p>○保健体育科、数学科において中高両方の授業を持つ教員がいる。高校籍の英語科教員2名、国語科1名が、中学校籍として所属。</p> <p>○職員室は、中高合同で約5教室分。</p> <p>○職員会議は、中高合同と中高別で月1回実施。教科会は中高合同。</p> <p>○校内組織、分掌も中高合同。実際の業務では中高別が多い。</p>
<p>11 年間行事等</p>	<p>○入学式、文化祭は、中高合同で実施。</p> <p>○卒業式、体育祭等は、中高別で実施。</p>
<p>12 部活動</p>	<p>○部活動は全員加入。</p> <p>○中学校は、運動部9、文化部4。高校は、運動部13、文化部8。</p> <p>○中学3年後半から高校の部活動に参加。</p> <p>○部活動によっては高校生と合同で活動。</p>
<p>13 生徒会</p>	<p>○生徒会組織は概ね共通であるが、役職は中高別に選出している。生徒総会は中高別で開催。</p>
<p>14 その他</p>	<p>○中学、高校ともに指定制服。高校生から、男子はネクタイの色が替わり、女子はリボンからネクタイになる。</p>

庄内中高一貫校（仮称）開校準備に係る意見聴取 記録要旨のまとめ

《中高一貫教育校の設置について》

- 庄内地方、鶴岡市に魅力的な高校ができることは歓迎すべき。都会から移住する人にとっても望ましい。地元が誇れる学校にしてほしい。
- 鶴岡南高校と鶴岡北高校を統合して中高一貫教育校を作るならば、日本でも抜群の学校を作ることが可能である。
- 併設型中高一貫教育校は、中学・高校から入学でき、6年か3年かを選べることは良い。酒田市の子ども達は、酒田東高校と庄内中高一貫校（仮称）を選択できる。
- 中学校の入学定員は2～3学級（66～99人）が適正だと考える。高校からの入学者が新しい風を吹き込み、学校のマンネリ化を防ぐことにもなる。
- 高校受験が無いことにより、併設型中学校は人気が出るだろう。併設型中学校で酒田市と鶴岡市の生徒が互いに学び合うことで、互いの地域を知り、交流が深まる。
- 中高一貫教育によって、生徒の個性・長所を伸ばすことができると良い。6年間の目標をもつことが大事で、楽しんで、やりたいことをやらせたい。
- 先行事例である東桜学館と交流するとともに、地元の中学校との交流も大切である。
- 中高の境界線である高1と中3を重視し、生徒同士と教員同士の交流も大切である。最初は大変だろうが、教員も育ち、充実感を得られるだろう。
- 公立で中高一貫教育をすることに疑問の声がある。教育改革の流れで仕方無いが、レベルの高い高校を中高一貫教育校にして、レベルが下がることを不安視する声もある。
- 中学と高校でキャンパスが分離しており、生徒や教員の交流などの点で、中高の一貫教育がうまくいくのか、外から見ての印象として、心配な点である。
- 分離校舎で連携は大変だが、中学生が高校生の姿を見ることができるのは大切である。

《学校づくり、学校の理念について》

- 学校の目標や理念をしっかりと作り、特色を出すことが重要である。
- 高校の再編（統合）等への反対の声を収束させていくためには、新しい学校が、「夢のある学校」であることを説明して納得してもらうことに尽きる。
- 中高一貫教育校の形だけ作って、理念や指導方法が旧態依然の詰め込み教育のままでは必ず失敗する。東京にもそのような失敗例が多くあり、根本的に変革する必要がある。
- 学校の理念づくりが最重要である。各方面からの意見をバランス良く取り入れ、折り合い付けようとすると、中途半端ものになり、本来の目的を見失ってしまう。
- 学校の理念をもとに「最上位の目標」を共有し、そこから順に手段・方法を首尾一貫して考えることが最も重要である。
- 人の不満を言わずに、自分たちで改革していく生徒を育てることが根本的な教育理念としてある。ヨーロッパの「子ども達のエージェンシーを高める」といった考え方が大事である。学校教育を、国際的なレベルで本質から問い直すべきである。
- 国際的な基準で学校づくりをしてほしい。自律よりも規律を大事にしていることを、根本的に変えない限り、国際社会で活躍する日本人はうまれにくい。
- 学校の目的は、障がいの有無に関わらず、何らかの方法でコミュニケーションをとり、より良い社会を作ることにある。多様な人間がいることを受け入れて、対立が起きても解決をする能力が必要である。
- 大学の進学実績だけで学校を評価するのではなく、国際社会の中で生きていき、地域を活性化して、そこに新しい産業を生み出し、人々が幸せになるような仕組みを作り出

すような人材を輩出できるかどうかが学校の価値である。

- 世界中の人間が幸せになる社会を作っていくために貢献できる生徒を育てたいという思いで教育をしている。OECD Learning Framework 2030 で目指す世界「well-being」を作り上げるために、貢献できる生徒を育成したいと考えている。
- 首都圏に多くある難関大学進学が目的の中高一貫教育校を模倣するのではなく、山形ならではの学校を作ることが重要である。日本に誇れる学校、日本の勢いをつけるような学校を作るべきである。例えば、インターナショナルクラスや、AOを目指すクラスなど、カリキュラムを柔軟にして自由度の高いクラスを1クラス作るのはいかがでしょうか。
- 「自主自立」を始めとする基本理念は全うである。勇気を持って全うしてほしい。これを純粋に行うとすれば、一般的な大学受験を目指すといったことにならないと考える。
- 地域に視点を絞るのではなく、社会、世界など広い視点で見るとすべきである。

《学習全般について》

- カリキュラム等については、土台となる小学校の学びを確認し、東桜学館を参考に、体系的に整理していくと良い。
- 受験英語ではなくて、聞いたり話したりできる「使える英語力」を身に付けてほしい。
- ①本物に触れる ②本質をとらえる ③本気で取り組む ことが大切で、ツールとしての英語とICTなどがある。
- 「本物に触れる」ことにより、本物が訴えかける力（教育力）を享受できることは大きい。教員が研究等を評価することには限界があり、一線級の本物の人物に評価されることで、生徒は自信にもなり、今後の活動の推進力にもなる。
- 従来型の詰め込み学習ではなく、研究活動から教科書の内容に意図的に繋ぐようにしている。研究に必要とされる教科の力（例：英語、化学、生物等）を意識させることで、生徒は通常の授業や自学への意欲が非常に高まり、主体的に学習する姿勢が自然と身に付いてくる。「研究と授業の連携」を常に意識し、意図的に行っている。まず徹底的に学問を深く掘らせてから他の教科に広げるように指導している。つまり、得意分野を深く掘り下げてから横に広げることをしている。
- テクノロジー（ICT）を活用することは、教育を高度化するために不可欠である。
- 高大などの連携は、秋田県と新潟県など環日本海の視点で考えることも可能である。
- 大学や企業との連携が大事であり、慶應義塾大学先端生命科学研究所に研修生としていた地元の高校生が、慶應義塾大学に進学し、地元就職した事例もある。
- 鶴岡市には慶應義塾大学先端生命科学研究所や優れた企業が多く、これを教育課程に入れ込んで、「最上位の目標」を共有し、そこから順に手段・方法を首尾一貫して考えることができれば、国際社会で勝つ、ダントツの学校になる。
- 教員の質を高めるためにも、良い人材を集める必要があるのではないか。

《探究型学習、探究活動について》

- 中高一貫教育校では、課題を与えてそれをチームで研究し解決するような学習活動を実施してほしい。学校には研究する土壌が必要であり、しかも実践的な研究を期待する。
- 研究テーマの設定で最も大事にしている価値は、「楽しいこと」である。3年間主体的に続けるためには、生徒が自分でやりたいと思い、楽しめることが最重要である。また、新規性も重視している。世界中で誰も解明していない研究しか、研究テーマとして認めていない。答えのないものを研究する方法を学ぶことにつながる。そのため、研究テーマは解明が難しく、仮説の間違いや成果物を作れないことも多い。そこで成果物で評価することはせず、プロセスを評価するようにした。仮説、先行研究の研究、実験、

データ取りなどの一連の研究プロセスを評価する。適切なプロセスは、他のテーマや大学に進学してからも応用可能である。

- 自由研究の時間を多く設定し、毎学期繰り返すことが重要である。教員から、探究の指導の進め方について不安視する声もあるが、指導ではなくアドバイスが良い。
- 庄内には教育資源が多く、それらを生かした探究学習を行うことも可能だろう。中学で地域を題材に、体験的な学習をすることで、高校ではさらに深い学びにつながる。

《庄内地域の特色を生かした教育活動について》

- 庄内地方は非常に素晴らしい地域である。地域理解促進のためにも、「庄内の自然、産業、文化などを生かした体験活動の充実」は非常に良い。
- 鶴岡市は「食文化創造都市」になっており、出羽三山は日本遺産にもなっている。酒田市には、酒田港に豪華客船が来ることから、酒田港を契機に、グローバルな視点で世界を見ることが可能である。2市2町で行っている「ジオパーク」を題材として課題学習を行えば、理科や社会の学習にもつながりが深いものができる。
- 庄内地域の地域性としては、防災・災害（風水害）の視点は一生のテーマとなるものであり、先人の工夫を学び、伝えていくことは重要である。こういったESDの視点は、若いうちが良い。
- 鶴岡市は、長い歴史があり、文化の集積地となっており、民度の高い地区である。地元の文化を実地で知ってもらおうよう、フィールドワークが大事である。
- 地域に開かれた教育課程の考え方のもと、可能な範囲で体験学習等を取り入れ、地域を知ることは大事である。
- 教員が地域を知ることが大切で、他県では教員が地域振興にあたっている。

《その他》

- 入社した社員を見ると、部活動や研究など一つのことに一生懸命打ち込んだ経験がある人が活躍している。
- 一線で活躍している人は皆ある分野に飛び抜けている。これからの時代にはジェネラリストは必要ない。
- 部活動においても6年間かけて育てれば、優秀な人材が育成できるだろう。
- 県外に出て、社会的影響力を持って帰ってきて、十分な雇用を生み出す視点が必要である。
- 国際化が進んでおり、世界を意識していくべきである。身近なところでも、地元出身者が地元の良さを外で発信することで、外から人が入って来ることになるだろう。
- 庄内中高一貫校（仮称）に入れなかった人をどうするのが課題である。私立高校などが受け皿となり、奨学金制度なども活用されていくことになるのだろう。

教育課程作成の進捗状況について

(1) 教育課程編成・実施の基本方針

① 6年間を見通した計画的・系統的な教育課程の編成

- ア 6年間を、基礎期（中1・中2）－充実期（中3・高1）－発展期（高2・高3）の3段階の発達段階に分けて捉え、発達段階に応じて、計画的・系統的な教育課程・教育活動を展開していきます。
- イ 中高一貫教育に係る教育課程の特例を生かし、中学校の数学において高校の内容を先取りして学習するとともに、外国語等において中学校の学習の発展的な内容として高校で学習する内容を盛り込んだ学習を展開します。
- ウ 個性の伸長に応じて多様になる生徒の希望や進路目標に対応するため、高等学校では単位制を導入します。

② 探究的な学びを実現する授業時間の確保

- ア 1週間の授業時数は、中学校では30時間とし、高等学校では32時間を基本とします。
- イ 授業の1単位時間は、中学校・高等学校ともに55分間とします。

③ 生徒・教員の交流の促進

- ア 中高の生徒が、互いの校舎を使用し、合同で学校行事や生徒会活動などに取り組む場面を設定します。また、部活動を中高合同で行うなど、中高における日常的な交流を促進します。
- イ 中高の教員が、教科経営や学校組織等について、密接に連携して運営します。また、必要に応じて、中高双方の教員による交流授業を実施します。
- ウ 併設型中学校から進学する生徒と高校から入学する生徒との交流を促進し、切磋琢磨することで、個性や能力の一層の伸長を図ります。

(2) 教育内容の特色

① キャリア教育の充実

自己の個性を見つめさせながら、社会的自立に向けて必要な能力や態度を身につけ

させるため、総合的な学習の時間、特別活動などの時間を計画的に活用したキャリア教育を実践します。

ア 地元企業への職場体験、各種社会人講師による講演会などを実施するとともに、地域との連携・協働企画やボランティア活動への参加を通じて、視野を広げ、将来の生き方や社会への参画の仕方を考え、進路を選択する力を育成します。

イ 大学や研究機関等による出張講義、大学のオープンキャンパスや公開講座への参加を通じて、学ぶ目的を明確に持ち、進路希望の実現を図るために努力し続ける態度を育成します。

② 探究型学習の推進

豊かな感性と探究心を持って自ら課題を発見し、幅広い知識や技能を活用して論理的に解決の道筋を考え、他者とのコミュニケーション及び協働を通じて解決を図る探究型学習を、総合的な学習・探究の時間などの時間で実践します。

ア 中学校の総合的な学習の時間では、庄内地区を中心とした自然、文化、産業などから課題を設定し、フィールドワーク等の体験を通じて、課題を解決する授業を実践します。

イ 高等学校の総合的な探究の時間では、分野ごとにグループを編成して研究の進め方を学んだ上で、身近な事象からグローバルな問題まで幅広いテーマの中から設定した課題を主体的に解決する授業を実践します。

ウ 大学・研究機関や企業と連携したり、STEAM 教育^{※2}やデザイン思考^{※3}の考え方を取り入れたりするとともに、ICT環境や学校図書館の機能を充実させるなどして、自ら設定した課題の解決に向けて、主体的・協働的で深い学びを具現化します。

エ 探究型学習の成果を発表する機会を設定するとともに、各種コンテスト等への積極的な参加を推奨します。

③ 理数教育の充実

知的好奇心、直感力や洞察力、根気強く考え続ける力などの創造性の基礎を培う探

※2 「STEAM 教育」 …科学(Science)、技術(Technology)、工学(Engineering)、リベラルアーツ・教養(Arts)、数学(Mathematics)を活用した文理融合の課題解決型教育。

※3 「デザイン思考」…製品を作ったり物事を計画したりするときなどに、使用する人や参加する人などのことを理解し、アイデアを広げたり、情報収集や整理、検証などの様々な手法を用いて、課題を解決する考え方。

究的な理数教育を実践します。

- ア 中学校では、十分な授業時間（中学校で、数学は標準の25%増、理科は10%増）を確保し、基礎的な知識や技能を習得させるとともに、課題解決型学習や探究活動を取り入れた授業を実践します。
- イ 高校の数学では、少人数による習熟度別授業などの学習形態を工夫し、生徒一人一人が数学的な考え方、表現や処理の方法等の良さを実感する中で、それらを積極的に活用して課題を解決しようとする態度を育成します。
- ウ 理科では、探究型学習による主体的・協働的な授業や中高教員のティームティーチングによる高いレベルの実験を導入した授業などを実践し、科学的な見方や考え方を育成します。
- エ 高校の理数科においては、大学・研究機関等と連携・協力しながら、科学と数学への興味を高めるとともに、充実した探究的な学習を通して、高度な科学的、数学的な能力を育成します。
- オ SSH^{※4}指定の継続を目指すとともに、授業における課題研究を発展させ、国際的な科学技術コンテスト等への積極的な参加を推奨します。

④ グローバル教育の充実

将来、国際社会において外国語を使って意思を伝え合う力を培う実践的なコミュニケーション能力を高める外国語教育、国際理解教育を実践します。

- ア 中学校では、十分な授業時間（中学校で、標準の約33%増）と少人数授業を生かして、文法や語彙などの言語知識の定着を図るとともに、豊富な言語活動を取り入れた授業を実践します。
- イ 中学校では、海外研修及びオールイングリッシュキャンプを実施し、高等学校では海外研修の他に単位互換による在学中の中長期海外留学を実施し、実際に国際コミュニケーションを体験する場面を設定します。
- ウ 英語の授業や海外研修等の準備において、ICTを活用して海外の高校と交流したりするなど、実際に国際コミュニケーションを体験する場面を設定します。
- エ 校外の外国語検定等に積極的に取り組み、自己の力を客観的に把握しながら主体

※4 「SSH」…スーパーサイエンスハイスクールの略称。文部科学省が、将来の国際的科学技術系人材を育成することを目指し、先進的理数教育を実施する高校を指定し、研究開発を支援する事業。

的に学習する態度を育成します。

⑤ 道徳教育と体育・健康教育の充実

社会で活躍するために不可欠となる豊かな心と健やかな体を育むため、道徳教育と体育・健康教育の充実を図ります。

ア 中学校の道徳の時間や、中学校・高等学校の教育活動全体を通じて、将来の魅力あるリーダーとして必要な社会的責任と道徳的価値を自覚させるとともに、ボランティア活動等を推奨し、道徳的実践力を高めます。

イ 中学校・高等学校における保健体育・家庭等の授業及び中高合同の体育的活動などの特別活動、中学校における給食等を通じて、体育及び保健・安全・食育に関する適切な知識と判断力を養い、生涯にわたって明るく活力ある生活を営む態度を育成します。

⑥ 個に応じた支援・選択等の充実

ア ICT 環境の整備を促進し、EdTech^{※5}などを活用した個別最適化した学習や協働的な学習などに活用します。

イ 高校の数学や英語等の授業においては、少人数での授業、習熟度に応じた授業を展開し、きめ細やかな指導の充実に努めます。

ウ 高校の単位制の導入により、多様な選択科目を開設するとともに、少人数での授業を展開します。

※5 「EdTech」…教育(Education)とテクノロジー(Technology)を掛け合わせた造語。AI、IoT、VR等のテクノロジーを活用した革新的な能力開発技法。

これからの社会は、これまで経験したことのない少子高齢社会に突入するとともに、グローバル化の進展や技術の進歩の加速によって、社会、経済、環境など様々な分野において、前例のない変化に直面することになります。未来を担う子どもたちは、この複雑で予測困難な社会を前向きに受け止め、人間ならではの感性を働かせて、社会や人生をより豊かなものにすることが求められています。また、複雑化・多様化した現代社会の課題に対して、主体的な学びや多様な人々との協働を通じ、その課題解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと等が求められています。このような社会からの求めに対して、未来を担う子どもたちに必要となる資質・能力を次の3つの視点から捉え、これを庄内中高一貫校（仮称）の基本理念とします。

◇ 自主自立

自ら考え、主体的に行動して、志高く自分自身の可能性を伸ばしていくことによって、自己実現を図る

◇ 新しい価値の創造

確かな学力を身に付けるとともに、豊かな人間性を育むことによって、新しい文化・価値観・考え方などをつくり出す

◇ 社会的使命の遂行

時代の変化や社会の状況に応じて求められる役割を自覚し、自他を尊重し、協力し合い、社会の平和と発展に貢献する

この基本理念を柱として、育てる生徒像と目指す学校像を示すとともに、それらを集約した学校教育目標を掲げます。

(1) 育てる生徒像

① 自主性と自立心をもつ生徒

- ア 目標や目的を達成するために、自ら考え、主体的に課題解決に挑む力や、振り返りなどを通してより良い自己を目指して、自己をコントロールする力を育てます。
- イ 夢や希望の実現に必要な責任感、たくましさ、困難を乗り越える強い意志をもち、個性の伸長を図るとともに、自らのキャリアをデザインする力を育てます。

② 確かな学力と豊かな人間性を身に付け、新しい価値を創造する生徒

- ア 基礎的学力を基盤とした専門性の深化・高度化を図る探究心を育てるとともに、異分野を横断的につなぐために、俯瞰したものの見方や関連づけて思考する力を育てます。
- イ 価値を見つけ生み出す感性、新しいものや変わっていくものに対する好奇心、感性や知性に基づく独創性を育てます。

③ 社会的使命を自覚するとともに、その実現に向けて取り組む生徒

- ア 社会の中で果たすべき役割を自覚し、行動することにより、自己有用感・自己肯定感を育てるとともに、より良い社会の形成に貢献する心や郷土を愛する心を育てます。
- イ 自治的な活動や地域との協働等により、リーダーシップ及びフォロワーシップの精神、思いやりや多様性を尊重する心、他者との協調性、持続可能な社会を志向する価値観などを育てます。

(2) 目指す学校像

① 主体性やたくましさを身に付け、生徒一人一人の夢や希望が実現できる学校

- ア 社会とつながる活動により当事者意識を持たせるとともに、主体的な課題解決を継続的に行うことができるよう、個に応じた支援の充実に努めます。
- イ 個性の伸長を図り、将来の自己の生き方を具体的に計画する力を育成するため、6年間の発達段階に応じた系統的なキャリア教育を実践します。
- ウ たくましく健やかな心身の発育を促すため、道徳教育と体育・健康教育の充実に努めるとともに、生徒指導・教育相談体制の充実に努めます。

② 個人としての土台を築かせ、社会変化に応じて積極的に新しい物事に取組む学校

- ア 理数教育と外国語教育に重点を置いた教育課程を編成するとともに、多様な視点に立った探究的な学びを実践します。
- イ 読書活動や文化芸術活動を推進するとともに、大学や地域等と連携して本質に触れる体験活動や自然体験活動の充実に努めます。
- ウ 生徒一人ひとりに確かな学力を身に付けさせるため、少人数授業やICT^{※1}を活用した教育を積極的に取り入れ、理解度に応じたきめ細かな授業を実践します。

③ 社会を牽引する人材、地域を支える人材を育てる学校

- ア 地域と協働したり、地域に貢献したりする活動を推進し、地域や社会を理解するとともに地域社会及び国際社会等の発展に貢献する意識を高めます。
- イ 互いに高め合い、尊重し合う望ましい人間関係を構築するため、生徒主体となって企画・運営する多彩な特別活動を実践します。
- ウ 地域の基幹校として、開かれた学校づくりを目指し、学校と地域が連携・協働する環境づくりに努めます。

《 学校教育目標 》

基本理念、育てる生徒像、目指す学校像の検討を受けて、次回提案する。

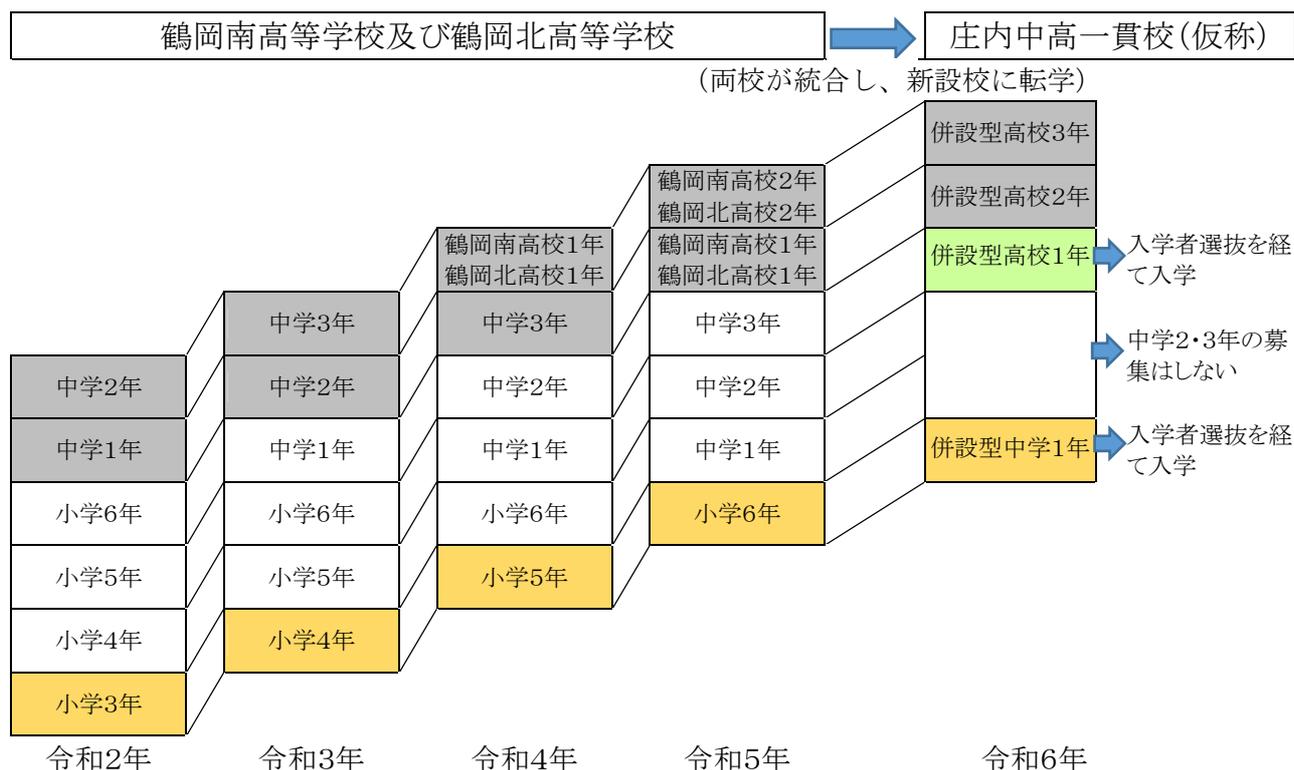
※1 「ICT」…Information and Communication Technology「情報通信技術」の略称。

教育基本計画への移行期の対応（案）

(1) 開校時の対応

- 令和4年度及び令和5年度の鶴岡南高等学校及び鶴岡北高等学校の入学者は、令和6年度の庄内中高一貫校(仮称)併設型高等学校の3年生及び2年生となります。
- ・ 令和4年度の鶴岡南高等学校及び鶴岡北高等学校の入学者は、主に令和2年4月現在の中学2年生です。
 - ・ 令和5年度の鶴岡南高等学校及び鶴岡北高等学校の入学者は、主に令和2年4月現在の中学1年生です。

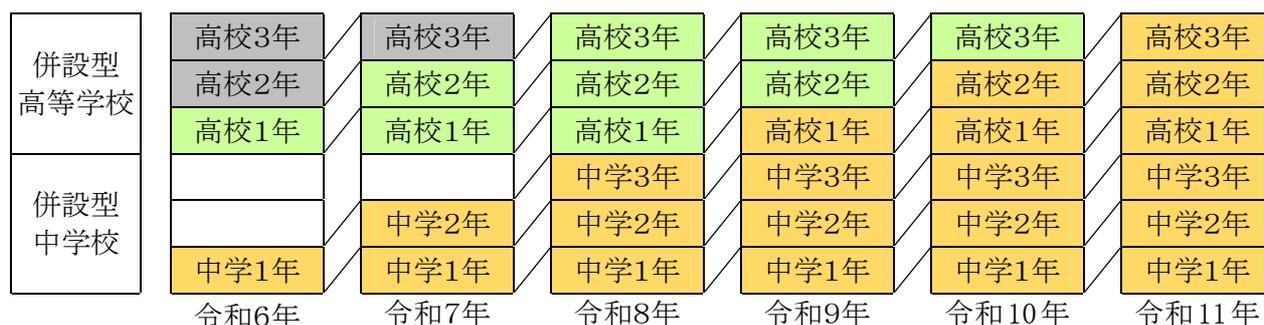
＜開校年度の併設型中学校1年及び併設型高等学校1～3年＞



(2) 教育課程等の対応

- 令和4年度及び令和5年度の鶴岡南高等学校及び鶴岡北高等学校の入学者は、庄内中高一貫校(仮称)の基本理念を踏まえて編成する教育課程に基づいて、それぞれの高等学校で学習します。

《参考》令和6年度～11年度の併設型中学校及び併設型高等学校の年次進行



開校に向けた準備組織及びスケジュール（案）

(1) 開校までの準備組織

「開校整備委員会」（令和2年9月～令和4年3月）、「開校準備委員会」（令和4年4月～令和6年3月）を設置し、開校に向けた準備や広報活動を行います。

(2) 主な検討内容とスケジュール

	令和2年9月～令和4年3月	令和4年4月～令和6年3月
準備組織	開校整備委員会	開校準備委員会
検討内容	<ul style="list-style-type: none"> ○制服、部活動の決定（中高） ○庄内中高一貫校（仮称）教育基本計画に係る地域説明会の実施（中高） ○学校行事等の検討（中高） ○校務分掌等の検討（中高） ○施設設備の詳細検討（中高） ○備品整備の詳細検討（中高） ○教育課程全般の決定（高校） ○具体的な教育課程の検討（中学） <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○校名、校歌、校章の決定（中高） ○校務分掌等、各組織についての計画の作成（中高） ○学校説明会の実施（中高） ○設備・備品の購入（中高） ○移転計画の作成（高校） ○入学者選抜の実施（中学） ○教育課程の編成（中学） <p style="text-align: right;">など</p>

庄内中高一貫校（仮称）の中学校入学者定員の検討方針（案）

1 田川地区再編整備第2次計画における入学定員に係る記載

- 中学校 2～3学級
- 既存中学校への影響について（抜粋）
「庄内地区の中高一貫教育校を鶴岡市に設置するに当たっては、地元鶴岡市及び庄内地区全体の子どもの数の現状及び将来見通しを踏まえて、県立中学校の定員を適切に定める」

2 定員の検討方針（案）

入学者定員の検討にあつては、入学者定員を80名及び99名とし、教育効果、当該年齢人口等から検討する。

80名：高校の1学級定員が40名であることによる。（中学校3学級、高校2学級）

99名：本県のさんさんプランにより、41名を超えた場合の1学級定員の上限が33人であることによる。（中学校3学級99名）

3 中高一貫教育を効果的に進めるための整理

- (1) 様々な分野のリーダーとなる人材を育成するため、切磋琢磨できる集団としての規模
- (2) 高校280名定員に対して、併設中学校からの入学者が埋没しない規模
- (3) 授業、学校行事や部活動等の教育的効果
- (4) 教員の配置と専門性の確保

4 小学校2年から2歳までの庄内地区の人口

	鶴岡市	三川町	庄内町	酒田市	遊佐町	合計
小学2年	985	62	147	678	81	1,953
小学1年	889	66	148	698	81	1,882
6歳	932	67	148	702	75	1,924
5歳	867	62	141	667	73	1,810
4歳	908	73	126	680	82	1,869
3歳	815	66	130	642	64	1,717
2歳	751	75	139	598	83	1,646

※高校改革推進室調べ

併設型高校の理数科定員等について（案）

1 併設型高校の定員の設定（案）

- 併設型高校の1学年当たりの学級数は、普通科5学級、理数科2学級とする。
- まとめ募集については検討を進める。
〔教育基本計画には、「まとめ募集」の記載は必要ないが、令和2年12月提出となる新カリキュラムに関係する可能性もあるため、早期に検討を進める。〕

2 理数科の定員を2学級とする根拠（理由）

- (1) 鶴岡南高校の理数科には、毎年、1年次生の約3割が希望しており、学年定員が200名から280名となることから、およそ84名の希望を見込まれる。
- (2) 一般に、中高一貫教育校の内進生の半数以上が理系を希望する傾向にあり、1学級(40名)のままでは、内進生の希望者だけで理数科定員を超えることも考えられる。
- (3) 両校の現状等
 - ・ 鶴岡南高校の1年次の理数科希望者は、200名中60名程度(約30%)である。
 - ・ 鶴岡北高校で理数科を希望するであろうと想定される生徒は、10名弱である。
 - ・ 日立第一高校(普通科4学級、理数科2学級 まとめ募集)では、1年次の希望は120名程度である。また、内進生の5割(40名程度)は、理数科に進学している。(東桜学館高校の場合、内進生の5割(50名程度)が理系を希望している。)

3 まとめ募集についての整理

(1) まとめ募集を行わない場合に想定される課題

- ・ 入選において理数科で募集すると、内進生の希望者が定員を超えた場合、対応できない。(学校教育法施行規則第116条 入学者選抜の不実施)
- ・ 内進生で募集定員が満たされ、外進生に対する理数科の募集がない場合が予想され、外進生に不利になることが想定される。

(2) まとめ募集を行う場合に想定される課題

- ・ 1年次より専門科目を配置するなど、理数科の特色を明確にすることができない。(理数科と普通科理系の違いについて、際立ったものがない。)

(3) 現状の確認

- ・ 現在、鶴岡南高校の理数科は、まとめ募集をしている。
- ・ 他県の事例では、理数科(名称が異なるものを含む)を設置している一関第一高校や日立第一高校で、まとめ募集をしている。
- ・ まとめ募集をしていない学校は、内進生に対して、中学3年生の時に個別面談・三者面談等を行い、十分に話し合いながら進路を決定している。

高校の1週間の授業時数（案）

1 高校の1週間の授業時数（案）

現在までの両校の教育課程、幅広い進路に対応する必要性、単位制による学校設定科目等の開設を考慮して、1週間の授業時数について32時間を基本とする。なお、理数科の授業時数については、SSHも考慮しながら今後更に検討する必要がある。

2 設定にあたり、検討した事項

（1）教育理念、地域の願い

- 基本理念 ◇ 自主自立 ◇ 新しい価値の創造 ◇ 社会的使命の遂行
- 生徒・保護者の願い、地域の願い
 - ・ 伝統ある鶴岡南高・北高の伝統を継承し、地域の基幹校として有為な人材を輩出することが、期待されている。地域社会及び国際社会の発展に寄与・貢献できる人材育成を目指す学校づくりが地域の期待である。また、県内2番目の中高一貫校として中学校に対する期待も高い。

（2）生徒の実態の想定

- 8クラス規模の学校で開校を迎え、学力差が大きいことを想定せざるを得ない。
- 単位制を前提に、生徒の多様な希望に応えるカリキュラム作りが必要である。
- 進学では超難関大・医学部から国公立・私大・短大・医療看護系（四大～専門学校）及び各種専門学校まで、就職では公務員・民間企業と多様な進路が想定できる。

（3）想定される学校設定科目

- 想定される志望の類型化と分類（コース）
 - ・ 超難関大・医学部、難関大、国公立、私大 医療看護系、芸術系、公務員・民間等の多様な希望に応じた類型化が考えられるが、実現のため授業時数の確保が必要である。どのように分類して示していくかについては、選択科目と共に教育課程編成の中で検討していく。

（4）その他

- 普通科・理数科の併置校としてSSHも考慮しながら、中高一貫校にふさわしい教育課程と1週間の授業時数の確保が必要である。

3 参考

○ 現行の週授業時数

鶴岡南高校	32時間（1単位時間55分）	
鶴岡北高校	34時間（1単位時間45分）	※登校日数を増やし授業を実施
東桜学館高校	32時間（1単位時間55分）	

県立庄内中高一貫校（仮称）の入学者選抜について（案）

令和2年1月
高校教育課

1 基本的な考え方

- 今後、県教育委員会で策定する県立中学校入学者選抜基本方針（仮称）に基づき、公正かつ適正な方法により、入学者選抜を実施します。
- 庄内中高一貫校（仮称）の基本理念に照らし、この学校における学習への適応能力、学ぶ意欲等を総合的に判断し、入学予定者を選抜します。

2 併設型中学校

(1) 出願資格

次のア～ウを満たすこと（詳細は募集要項に明示します。）

- ア 当該年度に小学校若しくはこれに準じる学校を卒業する見込みの者
- イ 入学予定者に選抜された場合、入学を確約できる者
- ウ 原則として、保護者とともに山形県内に住所を有する者

(2) 入学者選抜に係る資料と観点

NO	選抜資料	観点
1	適性検査	課題を理解し、根拠に基づいて論理的に考え、適切に判断する能力、課題に対する自分の考えを表現する能力など、小学校の教育課程に基づく学習によって身につけた総合的な力をみます。
2	作文	与えられたテーマについて、自分の考えや思いなどを適切にまとめ、文章で表現する力をみます。
3	面接	志願の動機や主体的に学習に取り組む態度などを総合的にみます。
4	調査書	小学校における学習や生活の状況をみます。

3 併設型高等学校

(1) 併設型中学校からの入学（内進生）

入学者選抜は行わず、入学の意思確認を経て、進学できるものとします。

(2) 併設型中学校以外からの入学（外進生）

山形県公立高等学校入学者選抜実施要項によります。

庄内中高一貫校（仮称）施設整備計画（案）

1 基本的な考え方

- (1) 基本理念を踏まえ、中高一貫教育の特色ある教育課程を実現するための学習環境の整備を目指します。
- (2) 中学校と高等学校のそれぞれの段階にふさわしい学習・生活環境の確保に留意しながら、分離校舎ではあるものの、中高一貫教育校としての一体感を持ち相互交流の機能を持たせる整備を目指します。
- (3) 安全で、ゆとりと潤いのある学習・生活環境の充実を図るとともに、生徒間及び生徒と教師の交流、大学や地域との連携など、多様なコミュニケーションを促す豊かな学校環境の整備を目指します。

2 改修及び建設校舎と場所等

(1) 併設型中学校の概要

現在の県立鶴岡北高等学校敷地内にある校舎等を一部改修し、技術室、給食関連施設、交流のための施設等を整備します。

(2) 併設型高等学校の概要

現在の県立鶴岡南高等学校敷地内にある校舎等を大規模改修し、不足する教室等については新たに整備します。

3 改修及び建設計画

	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
開校準備	教育基本計画 策定委員会	開校整備委員会		開校準備委員会			
併設型 中学校 〔現鶴岡 北高校〕			基本設計 実施設計		改修	開校	
併設型 高校 〔現鶴岡 南高校〕		地質調査	基本設計 実施設計		改修		

* 併設型高校校舎の改修工事では、仮設校舎等を活用するなどの対応をする。